



おぐら倉

<校訓>  
自主  
創造  
協力



令和4年5月2日(月)発行  
校長 栗原博巳  
北九州市八幡東区尾倉三丁目10番1号  
HP: www.kita9.ed.jp/ogura-j/

<学校教育目標>

豊かな心を持ち、健やかでたくましく行動する生徒の育成～みんなで考え、みんなで取り組み、みんなでつくる尾倉中学校～

<目指す生徒像>

- ① 感性豊かで、意欲的、主体的に学習する生徒
  - ② 健康で明るく、思いやりのある生徒
  - ③ 礼儀正しく、奉仕の精神に満ちた生徒
- ◇ 元気のいい挨拶・礼儀・身なり・学習規律と集団生活における規律とマナー

5月の行事予定 5月行事をお知らせします

日	曜	行事予定	日	曜	行事予定
2日	月	歓迎遠足(皿倉小合同)⇒中止	23日	月	生徒総会学級討議
6日	金	1年基礎確認テスト(1～4校時) 薬物乱用防止教室(午後)	25日	水	生徒総会学級討議
9日	月	北九州英語村体験学習(2年)	26日	木	眼科検診
11日	水	尿検査(3回目) 修学旅行前日指導(3年) スクール救命士(2年)2・3校時	27日	金	耳鼻科検診
12日	木	修学旅行(1日目)大阪・奈良	29日	日	皿倉小学校運動会
13日	金	修学旅行(2日目)奈良・京都	30日	月	SDGs 体験学習前日指導 小学校代休・給食なし
14日	土	修学旅行(3日目)京都	31日	火	SDGs 体験学習(1日目)
16日	月	疲労回復日(3年)	6月1日	水	SDGs 体験学習(2日目)
18日	水	歯科検診(1年) ノ一部活デー	○ ウイズコロナでの学校行事が本格的に始まります。生徒のみなさんは、一つ一つの行事や取組を大切にしていきましょう。 ○ まだまだ感染防止に努めなければならない日々が続きます。新型コロナ拡大防止のため、行事や部活動の大会、練習試合等は変更(中止・延期も含め)になる場合があります。		
19日	木	内科検診(2年)			
20日	金	代議・専門委員会			

見えないところに工夫はある

小中合同歓迎遠足(尾倉中・皿倉小)中止【延期】について

いっせいでお知らせしたように、5月2日(月)に予定していた皿倉小学校と合同の歓迎遠足は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一旦中止としました。現時点では、2学期に予定してします。(感染状況によります)この遠足は、本年度より始まった小中一貫・連携教育モデル校としての初めての取組でした。小学生の方が楽しみにしていたようで、残念です。ただ、これを機会に、尾倉中の生徒が「小学校と一緒にどのような取組ができるのか」を考えるきっかけにしてほしいと思います。

新型コロナウイルス関連(学級閉鎖・修学旅行について)

I 学級閉鎖の基準の見直しについて(4月22日 北九州市教育委員会通知)

以下の場合、感染判明日の翌日から3日間、学級閉鎖となります。

- ① 同一の学級で3日以内に、3名以上の感染者が出た場合
- ② 感染者が1名であっても、周囲に未診断の風邪等の症状がある者が複数いる場合
- ③ 学校活動において、複数の濃厚接触者が存在すると判断される場合

※学級閉鎖中に新たな感染者が2名以上出た場合、5日間に延長されます。

※上記②、③における「複数」については、学級規模等により北九州市教育委員会と学校で判断することになります。



II 修学旅行直前に陽性者が判明した場合の対応について(4月22日北九州市教育委員会通知)

- 修学旅行直前の3日間で、児童生徒に陽性者が判明(同一学級内で複数の陽性が判明)した場合、教育委員会と協議します。
- 延期については、学年の感染状況やキャンセル料等を鑑みて学校で判断します。
- 1学級に直前3日間で5名以上発生するなど、クラスターの疑いがみられる場合は、修学旅行を延期します。
- 今後「まん延防止等重点措置」や「緊急事態宣言」が発出された場合は、対応を変更する可能性があります。その場合、北九州市教育委員会より改めて連絡があります。



今年の大型連休(ゴールデンウィーク)は企業によっては10連休となっています。中学校で心配なことはいくつかありますが、まず、長期の休みによって、子どもたちは、「学習のリズム」を忘れていくことが多いということです。学校では、子どもたち自身が主体的に思い出せるような言葉かけをします。しっかりと守ることができている生徒がいたら、「さすがだね」とか「すばらしい」といった、分かりやすいほめ言葉を添えて、認める機会につなげていきたいと考えています。

この小さな積み重ねが、学習習慣や学習規律を思い出すきっかけとなり、「学習のリズム」が戻り始めるのではないのでしょうか。ご家庭では、「4月は、どんなことに気を付けたかな?」となります。「振り返ること」を意識した言葉かけを学校でも家庭でも心がけ、子どもたちがスムーズに学習に戻るよう支援していきたいと思っています。もちろん、生活リズムを取り戻すことが最優先です。